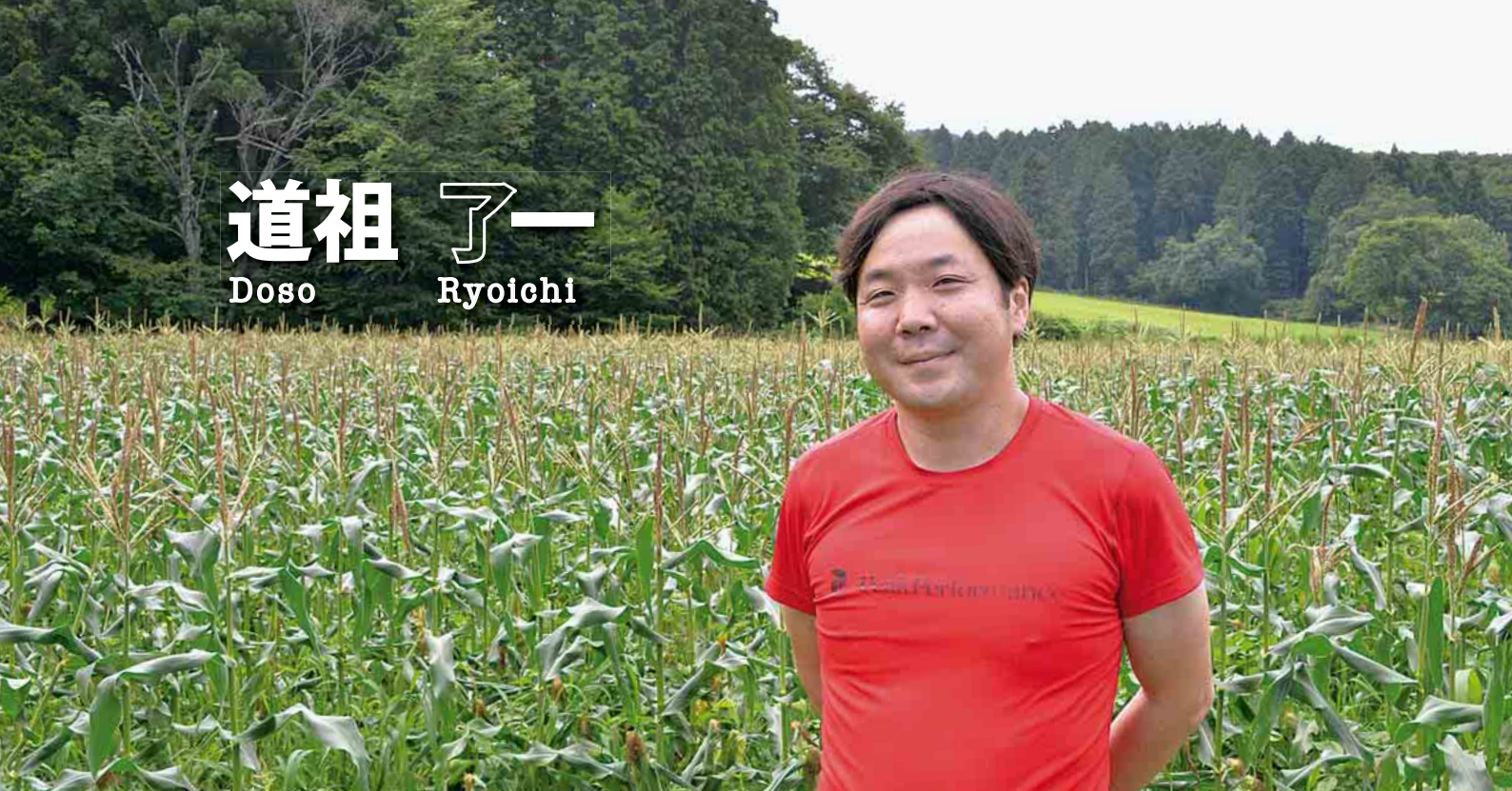


道祖 了ー

Doso Ryoichi



立派に実っている様子



実がぎっしり詰まっているイエローダイヤモンド



道祖 了ーさん(蒜山東茅部)

実家が農家で大根を栽培していたこともあり、約5年前にUターン。1シーズンで2町程度のイエローダイヤモンドを出荷している。登山が趣味で、月に一度山へ繰り出しているのだとか。

真

MANIWA BITO

庭人

イエローダイヤモンドとの出会い

実家で大根を栽培する傍ら、最初は家庭用でトウモロコシも栽培していた道祖さん。作る量が増え、農協に今後の出荷について相談したのが、イエローダイヤモンドに出会ったきっかけだそうです。栽培する上での苦労は、天候に左右されるだけでなく、トウモロコシ自体が甘いため、シカやイノシシ、鳥が狙ってくることも。また、「直売所などが品切れにならないように、収穫するタイミングと植えるタイミングにも気を付けています」と語ってくれました。一般的なトウモロコシとの違いは、寒い気候で栽培している分、熟成期間が

長くなることで、より甘いトウモロコシとなっているそうです。まだ農家歴が浅いということもあり、「ほかのイエローダイヤモンド農家さんに教えてもらいながら、日々栽培しています」と語ります。

今後は岡山県外にも

例えば、蒜山地域の近隣でもある鳥取県倉吉市の直売所では、気候が暖かいこともあり、トウモロコシの時期がすでに終了しているところもあるそうです。一方で、蒜山ではこれからトウモロコシの時期になります。お盆の時期もあるため、

こうした県外への出荷ができれば、よりイエローダイヤモンドを知っていただき、食べてもらえるようになるのではないかと意気込んでいました。「ぜひ、いろいろな人にイエローダイヤモンドを食べていただきたい」と語る道祖さん。これから農協と協力しながら、県外への展開も視野に、イエローダイヤモンドを栽培する日々は続いています。

